

公民部会

研究主題 社会と人間の探究をとおして、主体的な学びにつなげる評価の工夫と指導の改善

I 主題設定の理由

平成15年度より実施された学習指導要領は、その目標に「広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせる」と示している。「主体的」という表現は、各科目の目標においても、「主体的に考え公正に判断する」（現代社会）、「生きる主体としての自己の確立」（倫理）、「主体的に考察させ」（政治・経済）と示され、さらに、内容の取扱いにおいても、「主体的」な学習を喚起する指導が求められている。

このことを受け、本研究では、生徒の主体的な学びにつながる評価や指導の在り方について、評価と指導の一体化に配慮しながら、研究主題を設定した。

さらに、「生徒による授業評価」を、授業改善の視点の一つとして導入した。その中で、生徒に、授業における主体としての意識を喚起し、生徒と教員による共同作業としての授業の在り方について研究を深めることとした。

II 研究の視点

- 1 学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒が、現代の社会と人間について、主体的な学習に取り組む指導計画、指導内容、評価について研究する。
- 2 指導と評価の一体化を考慮し、指導單元における評価規準を明らかにした、よりきめの細かい指導について研究する。
- 3 生徒が自己の学習を振り返ることによって、生徒が主体的に学ぶ意欲をもつとともに、教員の授業改善の手立てとなるための「生徒による授業評価」の実施の在り方を研究する。

III 研究の方法

- 1 「倫理」では、「(1) 青年期の課題と人間としての在り方生き方」の「イ 人間としての自覚」のうち、「人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義」について理解させる内容において、イスラム教への理解を深める学習計画を作成する。
なお、この単元は、「倫理」(2) 現代と倫理」の「ウ 現代の諸課題と倫理」における「世界の様々な文化の理解」、「現代社会」(1) 現代に生きる私たちの課題」における選択課題「日常生活と宗教や芸術とのかかわり」で、生徒の課題追究学習に援用できる。
- 2 「政治・経済」では、「(2) 現代の経済」の「ア 現代社会の変容と現代経済の仕組み」のうち、「財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割」について、基本的な考え方を身に付けさせるとともに、税に関する望ましい在り方について主体的に考察する指導計画を作成する。
- 3 作成した指導計画に基づき、検証授業を行うとともに、その指導について、「生徒による授業評価」を実施し、指導の改善の方向性について研究開発する。

第1分科会 「異文化との共生に向けた倫理的課題の探究」

1 目 標

- (1) キリスト教・仏教・イスラム教を概観することをとおして、イスラム教やイスラム文化に関心をもたせ、主体的に考察する意欲を高める。
- (2) 異なる宗教や文化との共生という倫理的課題を自覚させ、多様な宗教や文化に対する寛容の精神や公正な判断力を養う。
- (3) イスラム教やイスラム文化に関する課題の追究をとおして、人生における宗教の持つ意義を理解するための適切な資料を選択し、表現する能力を養う。
- (4) エスノセントリズム（自文化中心主義）を脱却して異なる宗教や文化に対する寛容の態度を身に付けさせ、国際社会に生きる人間としての在り方生き方について考えを深めさせる。

2 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラム教とイスラム文化、ムスリムに対する関心が高まっている。 ・現代の諸事象における倫理的課題のうち、異なる宗教や文化との共生という課題に対する関心が高まっている。 ・イスラム教やイスラム文化との共生という課題を自己の課題とつなげて意欲的に追究している。 ・イスラム教やイスラム文化と共生して生きる道を探ろうとする態度が身に付いている。 ・イスラム教以外の異なる宗教や文化に関する類似の課題についても関心が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の多様な宗教や文化について、倫理的視点から課題を見いだしている。 ・イスラム教やイスラム文化との共生という課題を多面的・多角的に考察している。 ・イスラム教やイスラム文化と共生して生きようとする自己の在り方生き方について探究し、主体的かつ公正に判断している。 ・多様な宗教や文化の差異に対する寛容の精神と公正な判断力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主たる教材である教科書や副教材に掲載されている複数の資料のうちから、課題を解決するために必要な情報を自ら探索して選択し、活用している。 ・イスラム教やイスラム文化に関する資料を様々なメディアを通して収集している。 ・イスラム教やイスラム文化との共生という課題を自己の課題とつなげて追究する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択し、活用している。 ・ムスリムとの交流やインタビューをとおして、ムスリムの思いに共感し、自己の思いを理解してもらえるようにムスリムに伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教・仏教・イスラム教の特色について理解し、知識を身に付けている。 ・イスラム教やイスラム文化の特色を理解し、知識を身に付けている。 ・イスラム教やイスラム文化が国際社会において重要な存在であることを理解している。 ・異なる宗教や文化を尊重し、世界の多様な宗教や文化に対する寛容の精神を身に付けることの大切さを理解している。 ・国際社会と国家とのかわりを視点として、広い視野から人類全体の福祉や国際協調などについて理解し、自らの人格形成に生かす知識を身に付けている。

3 指導と評価の計画

(1) 単元の指導・評価計画

① 指導計画

第1時 イスラム教とキリスト教・仏教との差異

世界の多様な宗教のうち、イスラム教に焦点を当てて、キリスト教・仏教との差異に気付かせる。

第2時 イスラム教（ムスリム）の生活や思想

ムスリムの日常生活の隅々にまでイスラム教が浸透しており、クルアーン（コーラン）の教えに従った考え方や思想が形成されていることに気付かせる。

第3時 ムスリムとの共生

宗教や信仰が、人間にとってかけがえのないものであることに気付かせ、宗教に対する寛容の精神を養い、異なる宗教や文化と共生するためにどうすればよいかを考えさせる。

第4時 地域に住むムスリムに学ぶ

地域の留学生会館や国際ボランティア機関を通してムスリムを紹介してもらい、ゲストティーチャーとして教室に招く。インタビュー等を通して、交流を体験させる。

② 評価計画

ア 単元のはじめに実施する生徒への事前アンケート

・「この単元の授業に期待すること」や「異なる宗教や文化と自分の生き方とのかかわり」に関連する設問を提示し、関心度や既得の知識を確認する。

イ 授業者による生徒の評価

・4つの観点に対応する具体的な評価対象・評価方法を明確にする。

「関心・意欲・態度」：ワークシートの記入内容（単元や授業の導入部での問いかけへの応答）、行動観察、発言内容、自主課題・発展課題への取組等

「思考・判断」：発問に対する応答、ワークシートの記入内容と定期考査の結果（思考力、根拠に基づいた判断を求める設問への応答）、報告書の考察内容等

「技能・表現」：ワークシートの記入内容（教材に掲載されている資料の選択・対比・分析の過程と結果）、自主課題・発展課題の取組過程と結果の発表、資料の読み取りやインタビュー時の対応等

「知識・理解」：ワークシートへの記入状況と定期考査の結果（知識を問う設問、理解度を確認する設問への応答）、発言内容等

ウ 毎時間終了後に実施する「生徒による授業評価」

・毎時間終了後に生徒による授業評価を実施し、異なる宗教や文化と自分の生き方とのかかわりに関する考え方の変容等、指導と支援の効果を確認・分析し、後の指導に生かす。

・自由記述欄の質問項目は、「興味を持った点」「新発見した点」「深く考えさせられた点」「授業内容や授業方法で、よいと思う点・改めてほしいと思う点」とする。

(2) 本時（第2時）の指導と評価 —イスラム教（ムスリム）の生活や思想—

	学習項目	学習内容	指導・評価活動
導入	・イスラム教と現代の国際情勢	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に行った授業アンケートの結果を踏まえ、本時の学習課題を把握する。 ・現代の国際的な諸課題を理解するためには、イスラム教への正しい理解が不可欠であることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒から出された質問事項をプリントにまとめ、フィードバックする。 (関心・意欲・態度) ・近年の国際的なニュースを持ち寄り、関心を高める。 (関心・意欲・態度)
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラム教の歴史と国々 ・イスラム教の教えとイスラム文化 	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラム教の成立過程について説明を聞き、地図帳を用いて聖地やムスリムの分布を確認する。 ・統計資料を用いて、信仰者数を調べる。 ・教科書の記述から、六信五行など、ムスリムの生活について理解する。 ・生活上の禁忌とその宗教的背景を知る。 ・ムスリムが使用するカレンダーでは、金曜日が安息日（休日）であることに気付き、宗教と日常生活との関連について考える。 ・社会生活において、宗教が重要であることを理解し、人生における宗教の意義について関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳の使い方、聖地を確認する方法を助言する。(技能・表現) ・統計資料の活用方法を助言する。(技能・表現) ・教科書の記述や講義を通して理解したことをワークシートに記入する。(知識・理解) ・基本的事項をワークシートに記入させ、点検する。(知識・理解) ・イスラム文化圏で使用されているカレンダーと日本のカレンダーとの違いを考察させる。(思考・判断) ・イスラム文化への理解不足によって生じた具体的な問題を挙げる。(関心・意欲・態度)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の整理 ・授業評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ムスリムの生活や文化を取り上げたビデオを見て、イスラム教についての理解をさらに深め、知識を整理・確認する。 ・本時の授業についての授業評価に取り組み、次時の授業に向けて主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容について、ビデオを見ながら振り返らせる。(知識・理解) ・自分自身がムスリムと交流して確かめてみたいと思う事項を記述させる。(関心・意欲・態度)

4 生徒による授業評価

(1) 生徒による授業評価のねらいと質問項目

「倫理」の授業では、学習内容を生徒が単に知識として受け止めるのではなく、常に自己の課題として受け止める学習となるような指導の工夫が求められている。そこで、本研究では、毎時間の授業終了時に観点を明確にした自由記述を主とする生徒による授業評価を実施し、次回の授業に生かすとともに、単元終了時にも同様の観点で生徒による授業評価を行い、生徒の変容を的確に把握し、当該単元のねらいが達成できる授業かどうかを検証し、授業改善に生かそうと考えた。

- ① この授業（単元）で、どのような事柄に興味を持ちましたか。（関心）
- ② この授業（単元）で、どのような事柄を深く考えさせられましたか。（思考）
- ③ この授業（単元）の教材や資料について、どのような感想を持ちましたか。（教材・資料）
- ④ この授業（単元）で、どのような事柄を新発見しましたか。（理解）

(2) 第1時終了後の生徒の回答と授業改善の視点

観 点	質問項目に対する生徒の回答	授 業 改 善 の 視 点
関 心	①宗教に興味があったからおもしろかった。 ②仏教やキリスト教に比べるとイスラム教についての具体的な理解が不足している。	①授業の内容と方法の質を高め、発展的な学習を用意する。 ②ムスリムとの交流体験をさせる。
思 考	①どの宗教もすばらしい教えがあるのに、相互に対立するのはなぜか、疑問である。 ②異なる文化を理解することの難しさを感じた。	①イスラム教に対する共感を基に、宗教や文化の差異に対する理解をさらに深める。 ②異文化に同化することと異文化を尊重することの違いを考えさせる。
教材資料	①仏教のところで「死んだ我が子を抱いて走るゴータミーの話」は考えさせられた。 ②資料は、人間の生き方を比較している面があるように感じた。	①生徒の心に響く教材を選ぶ。 ②資料の見方や趣旨を取り違えないように丁寧に説明する。また、生徒に応じて適切な資料を選択する。
理 解	①宗教による違いが少し理解できた。	①人生における宗教の意義を理解させ、寛容の精神をさらにはぐくむ。 ②異文化を理解する必要感を高める。

(3) 単元終了後の生徒の回答と授業改善の視点

観 点	質問項目に対する生徒の回答	授 業 改 善 の 視 点
関 心	①イスラム教のお祈りと民族衣装に興味を持った。 ②世界には多様な文化があり、宗教には様々な教えがあることに興味をもった。	①イスラム教以外の宗教や文化に対しても、関心を広げさせる。 ②社会的視野を広げさせ、異文化理解に対する関心や課題意識を高める。
思 考	①宗教のことを深く考えたことがなかったが、授業をとおして自分の中の世界が広がった。 ②ムスリムの話を聞いて、自分の考え方との違いに気付いたし、人のことを思いやっている姿勢に感動した。	①一過性の思いで終わらずに、課題追究型学習へとつなげる。 ②宗教をかけがえのないものとする生き方があることを認め、宗教への寛容の精神を深める工夫をする。
教材資料	①実際にムスリムと交流をもったことがとてもよかった。 ②もっと留学生を学校によんでほしい。	①他の単元においても、異文化を肌で感じる体験の機会を充実させる。 ②主体的な交流活動に発展させる。
理 解	①ムスリムが、他の宗教も尊重しているのは、新たな発見であった。 ②『クルアーン』が社会生活の様々な場面に影響していることがよくわかった。	①新たな発見に対する喜びを大切に、寛容の態度を育てる。 ②『クルアーン』『聖書』や仏典などを適切に教材化する。

第2分科会 「財政と租税」

1 目標

- (1) 現代社会における公的部門の経済活動である財政・税制の現状に関心をもたせる。
- (2) 経済の問題と自分たちの生活とを関連付けながら、税や税の使われ方について様々な立場に立って検討する能力を養う。
- (3) 現在の日本の財政状況を多様な資料からの確に捉え、今後の租税制度の在り方について主体的に考察できる能力を育成する。

2 評価規準

関心、意欲、態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・税や税の使われ方について自ら進んで考えようとしている。 ・現代の経済社会における財政状況に問題意識をもち、関心が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財政の現状を踏まえて、今後の税の在り方について考察している。 ・現代の経済社会で税収を財源とする公的部門の経済活動の在り方について、主権者としての意識をもって多面的多角的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の財政状況や望ましい税制について、資料を踏まえて表現できる。 ・租税や財政に関する資料を、新聞やテレビの報道、政府発行の資料、インターネット等の様々なメディアを利用して収集し、主体的に活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・租税の意義と必要性について理解し、その制度と問題点の知識を身に付けている。 ・現在の財政状況が抱える問題について正確な知識をもって理解している。

3 指導と評価の計画

(1) 単元の指導・評価計画

① 指導計画

第1時 私たちの生活と税（講義）

税に対する人々の意識に焦点を当て、税や税の使われ方への関心を高める。その際、税についてアンケートを実施して生徒の理解度をあらかじめ把握する。また消費税について取り上げ、身近な人が税についてどのように考えているかに関する調査を課題として出す。

第2時 税や税の使われ方について（発表と講義）

身近な人が税についてどのように考えているか調査をした結果を報告し合うとともに、現段階での自分の考えを発表する。

税の種類や課税方法などの基本的知識を習得させながら、課税には歴史の中で築いてきたルールがあることを理解させる。また納税者が主権者であることに気付かせていく。ここではワークシートを活用する。

第3時 税をめぐる諸課題（講義）

税の使われ方を調べながら、現在の財政支出の配分を分析させ、その問題点を理解させる。また、国債残高の問題、大きな政府か小さな政府かなどの問題を考えさせる。ここでは、国税庁発行の公民資料「私たちの生活と財政の役割」－財政と税のしくみ－や、新聞記事、インターネットのウェブページ等を利用し、さらにワークシートを活用する。

第4時 これからの税制の在り方について（発表準備）

学習してきたことや調べたことを活用し、第5時の発表を準備させる。学習をとおして今後の税制の在り方について自らの意見をまとめ、発表用の原稿や資料などを用意する。

第5時 これからの税制の在り方について（発表）

社会構造が変化する中、これからどのような社会が望まれるのか。それに対応してどのような税制が望まれるのか。以上の点について、自分たちの考えをまとめ、発表する。

② 評価計画

ア 授業者による生徒の評価

4つの観点に対応する具体的な評価対象・評価方法を明確にする。

「関心・意欲・態度」

課題への取り組みと内容、発言内容

「思考・判断」

ワークシートの記入内容(第2、3時)、発表の内容(第5時)、定期考査

「技能・表現」

調べ方の理解(第4時)、発表時の資料作成と活用(第4、5時)、発表の内容・表現(第5時)

「知識・理解」

ワークシートの記入内容(第2、3時)、発表の内容(第5時)、定期考査

イ 生徒による自己評価・授業評価

自己評価と授業者に対する評価の2つの内容で授業評価アンケートを取り、授業の改善につなげていく。

(2) 本時（第5時）の指導と評価 —これからの税制の在り方—

① 本時のねらい

単元のまとめの時間として学習発表を行う。学習した知識をもとに、自分たちの考えをまとめ、相手に分かるように表現する力を養う。可能であれば、質疑や意見交換を通じて内容のフィードバックを図るとともに、クラス全体で調べた成果を共有する。

また生徒による授業評価を実施し、これまでの学習の成果を各自が振り返る。授業者はこの評価を授業評価として活用し、授業改善を図る。

② 本時の展開

	学 習 項 目	学 習 内 容	指 導 ・ 評 価 活 動
導 入	発表の仕方の確認	発表の手順、方法を確認する。	手順の確認をさせ、理解させる。 (技能・表現)
展 開	<p>各班の発表</p> <p>・現在の税制、財政支出の配分、国債残高などの問題の指摘</p> <p>・望ましい税制や財政の在り方などの発表</p> <p>・発表時における発表者以外の生徒の活動</p>	<p>各班ごとに発表する。</p> <p>・税についての班員やその家族の意見を日常の実感なども踏まえながらまとめて発表する。</p> <p>・税制や財政の課題について、発表を行う。</p> <p>・国税庁の資料や新聞・インターネットなどの資料を調べ、歳入歳出額の推移や国債残高など具体性をもった内容を深める。</p> <p>・課税所得の捕捉率の問題、財政赤字の推移などを踏まえて、望ましい税制と税の使い方について、論理的に提案をまとめる。</p> <p>・聞き手が納得できるよう、今後の財政の方向性について、大きな政府を目指すのか、小さな政府を目指すのか、それぞれの問題点は何かなどについて分かりやすく提案する。</p> <p>・聞いている生徒は、プリントに、新たに分かったこと、発表に対する自分の意見などを書き込む。</p>	<p>・班として、内容をまとめることができたかをアドバイスする。 (技能・表現)</p> <p>・根拠を明確にして正確な知識に基づいて発表させる。 (知識・理解)</p> <p>・資料の内容は適切であるかなど、資料の選択について助言する。 (技能・表現)</p> <p>・自分たちが提案する税制と財政の在り方について具体的なデータに基づいて考察させる。 (思考・判断)</p> <p>・分かりやすい内容、言葉の使い方であったかなどをアドバイスする。 (技能・表現)</p> <p>・生徒の意見を班ごとにまとめて、各班にフィードバックする。 (関心・意欲・態度)</p>
ま と め	<p>・望ましい税制についての自らの見解</p> <p>・授業評価</p>	<p>・発表を聞いて、改めて自らの考え方を検証する。</p> <p>・本単元の授業についての授業評価に取り組み、自らの学習を振り返る。</p>	<p>・様々な意見を聞いて、自分の考え方を多面的・多角的に検証する。 (思考・判断)</p>

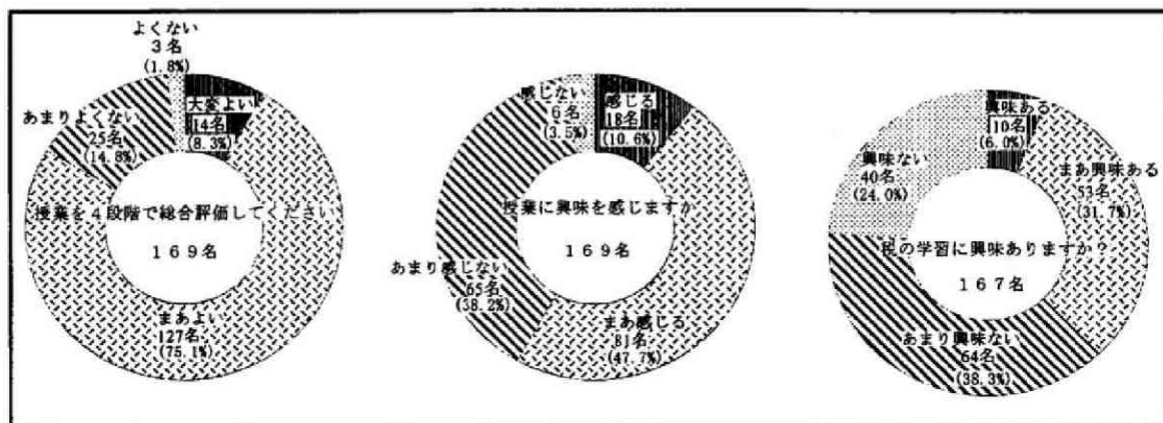
4 生徒による授業評価

(1) 生徒による授業評価のねらいと質問項目

「政治・経済」では、民主的・平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養うことが求められており、そのために生徒に「主体的に考察」させる指導が求められている。生徒が主体的に考察できるようにするためには、日々の授業がわかりやすく、生徒の興味・関心を高める工夫が必要である。

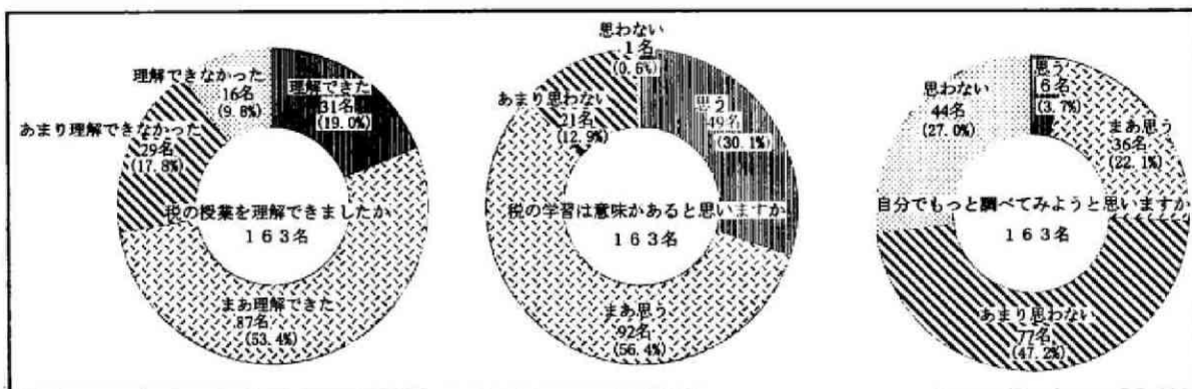
そこで、どの単元の授業においても事前に当該単元の興味について把握し、授業後にその変容を確認することで授業改善に向けた方策の資料となるように生徒による授業評価を実施した。当該単元に入る前の授業評価では、前単元の授業への総合評価、興味について質問するとともに、これから学習する当該単元への興味について調べた。その結果が図1である。

図 1



授業に対する総合評価で、否定的な回答をした生徒は169名中28名だった。この内訳は、授業のレベルが高すぎる、スピードが速すぎる、授業がわかりにくいという内容である。また、本単元に興味はないと回答したのは167名中104名だった。そこで、生徒が興味を持って授業に臨めるように、生徒の身の回りの人への調査などの方法を使って、学習内容が生徒の日常生活と関連が深いことを実感できるように工夫した。本単元終了後は、内容の理解やさらなる学習への意欲などについて質問することで、ねらいの達成状況の評価とした。その結果が図2である。

図 2



税を学ぶことに意味があると回答した生徒は141名にのぼった。授業を理解できたと回答した生徒は118名だった。アンケートの自由意見では「税の種類がこんなにあることを知り驚いた」、「消費税の導入に関連し、所得税が減税されていたことを知った」、「同じ所得でも税の額が異なることは発見だった」などの回答を得た。その意味では理解の面では成果がみられた。しかしながら、自分から学びたいと回答した生徒は42名にとどまっており、課題が残った。

IV まとめと今後の課題

1 第1分科会のまとめ

第1分科会では、異文化との共生に向けた倫理的課題を探究させることをねらいとして、イスラム教への理解を深めさせる4時間続きの授業を構想した。そして、「生徒による授業評価」として、同一の設問で毎時間実施することで、授業改善の方向を明確にした。第1時「イスラム教とキリスト教・仏教との差異」では、1時間終了後の授業評価を工夫するため、生徒がワークシートに記入した授業に対する感想を「関心」「思考」「教材・資料」「理解」の観点から分析し、授業改善の視点を見いだした。このことを踏まえて、第2時「イスラム教（ムスリム）の生活や思想に迫る」及び第3時「ムスリムとの共生を目指す」では、視聴覚教材を有効に活用し、宗教や信仰というかけがえのないものを大切にしている人々の存在を認め、尊重する態度を養うための指導と評価を工夫した。さらに、第4時「地域に住むムスリムに学ぶ」では、ムスリムとの交流やインタビューを直接体験し、宗教や文化の差異に対する寛容の精神の大切さを身をもって実感させる機会を設けた。そこでは、自己の「表現」を通して、自分とは異なる面を持った他者と交流するという実践的な課題に取り組ませた。「倫理」においては生徒の内面に迫る授業が求められており、集約する負担は増えるものの、毎時間の生徒の変容を確実にとらえ、授業改善の視点と方向性を明確にすることができた。

2 第2分科会のまとめ

第2分科会では財政と租税についての単元を取り上げて、指導と評価の計画を作成し、実際の授業を通じてその計画を検証した。この単元の授業で生徒に最も伝えたかったのは、生徒一人一人が財政や租税の問題についての当事者である、という点である。本単元は、だれもが消費税や所得税・住民税などの税を負担する納税者であるという点から、「政治・経済」の様々な単元の中でも当事者意識を持たせやすい単元の一つと考えられる。そこで事前に生徒の理解度を把握し、それを踏まえながら、身近な人への税に関する意識調査の課題、新聞やインターネットのウェブページなどを用いた資料の活用、発表学習による知識の整理と自分の意見の表明などの工夫を図った。このことにより、自分たちも社会の一員であり、この社会を取り巻く現在と未来の問題に積極的にかかわりあうことが必要であるという意識、つまり主体的な学習への意欲を育てることを目指した。その結果、多くの生徒にとって今まで漠然としていた財政と租税についての知識を整理して、一層の理解を深めることができたことが授業評価を通じて明確になった。今後の財政についても、そのような理解の上に立って自分の考えを示すことができるようになった者がある程度見られた。ただし、授業で学んだことを基にして、さらに意欲・興味を持って生涯にわたって学習を発展させようとする意欲の育成には課題が残ったことが授業評価を通じて明らかになった。今後の授業を改善していく一つの方向が、ここに示されているといえよう。

3 今後の課題

生徒による授業評価を公民科の授業改善に生かすためには、求める授業像を明確にすることが大切である。そのうえで、観点別に授業の目標を生徒にわかりやすく示し、評価票を作成する必要がある。今後実践をとおして研究を深めなければならない。また授業改善に対する組織的な取組として、公開授業や研究授業、校内研修会を充実させ、教員同士の相互評価の結果や保護者・地域の方の声を授業改善に生かしていくことも課題である。